

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局	名	関東農政局
---	---	-------

都道府県名	長野県	関係市町村名	飯山市、木島平村
事業名	農道整備事業 (農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業)	地区名	木島
事業主体名	長野県	事業完了年度	平成19年度

〔事業内容〕

事業目的： 本地区は、長野県北部の飯山市及び下高井郡木島平村に位置し、一級河川千曲川・樽川に沿った標高310～313mの平坦な地形の坂井区・天神堂区・小見区と、標高313～600mと東から西へ傾斜の強い南端区による農業地帯である。千曲川と樽川にはさまれた農地は、たびたび水害に見舞われ、その氾濫原が肥沃な沖積層を形成し、優良農地となっている。

しかしながら、基幹的な農道が整備されておらず、農作物の集出荷やほ場への資材搬入等に支障を来していた。

このため、本事業により基幹的な農道の整備を行い、流通の改善を図るとともに、農村生活環境の改善に資する。

受益面積：406ha

受益者数：449人

主要工事：農道3.3km

総事業費：1,658百万円

工期：平成8年度～平成19年度

関連事業：なし

〔項目〕

1 社会経済情勢の変化

(1) 社会情勢の変化

本地域の総人口及び総世帯数について、平成7年と平成22年を比較すると、総人口は4,789人（減少率14%）減少しているが、総世帯数は、45戸減少（減少率0%）している。

【人口、世帯数】（飯山市、木島平村）

区 分	平成7年	平成22年	増減率
総人口	33,273人	28,484人	△14%
総世帯数	9,299戸	9,254戸	△0%

（出典：国勢調査）

産業別就業人口については、就業人口に占める第1次産業の割合が平成7年の31%から平成22年の22%に低下しているが、長野県全体の10%（第1次産業103,387人/全体1,091,038人）に比べ高い割合となっている。

【産業別就業人口】（飯山市、木島平村）

区 分	平成7年		平成22年	
		割合		割合
第1次産業	5,695人	31%	3,170人	22%
第2次産業	5,196人	29%	3,335人	23%
第3次産業	7,245人	40%	8,195人	56%

（出典：国勢調査）

(2) 地域農業の動向

本地域の農業の動向について平成7年と平成22年を比較すると、耕地面積については27%減少、農家戸数は25%減少、農業就業人口は39%減少している。

なお、農家1戸当たりの経営面積及び認定農業者数は増加している。

(飯山市、木島平村)

区 分	平成7年	平成22年	増減率
耕 地 面 積	3,411ha	2,473ha	△27%
農 家 戸 数	4,495戸	3,373戸	△25%
農 業 就 業 人 口	5,160人	3,142人	△39%
うち65歳以上 (割合)	2,947人 (57%)	2,194人 (70%)	△25%
戸当り経営面積	0.76ha/戸	1.29ha/戸	70%
認 定 農 業 者 数	131人	251人	92%

(出典：農林業センサス、認定農業者数は長野県調べ)

2 事業により整備された施設の管理状況

整備された農道は、飯山市及び木島平村により適切に維持管理が行われている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

事業実施前は、水稻中心の生産が行われていたが、本事業の実施により農道が整備され、通作・集出荷時間の短縮及び荷痛み防止が図られたことから高付加価値のりんごの生産が増加している。

【作付面積】

(単位：ha)

区 分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成24年)
	現況	計画	
水稻	155	155	155
アスパラガス	98	98	98
きゅうり	26	26	26
しめじ(施設)	2	2	2
りんご	19	19	19

(出典：事業計画書、飯山市及び木島平村聞き取り)

【生産量】

(単位：t)

区 分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成24年)
	現況	計画	
水稻	812	812	880
アスパラガス	344	344	273
きゅうり	3,575	3,575	3,359
しめじ(施設)	370	370	1,418
りんご	339	339	422

(出典：事業計画書、飯山市及び木島平村聞き取り)

【生産額】

(単位：百万円)

区 分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成24年)
	現況	計画	
水稻	254	254	200
アスパラガス	217	217	260
きゅうり	693	693	738
しめじ(施設)	266	266	1,019

りんご	62	62	81
-----	----	----	----

(出典：単価は農業経営指標H21)

(2) 営農にかかる走行経費の節減

本事業の実施により、通作や集出荷に要する時間が大幅に縮減され、生産性の向上が図られている。

【走行時間】

(単位：hr)

区 分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成24年)
	現況	計画	
一次輸送	9,432	1,848	1,848
通 作	5,136	2,281	2,281

(出典：事業計画書、飯山市及び木島平村聞き取り)

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上

本事業の実施により、通作や集出荷に要する時間が短縮され、生産性の向上が図られている。

② 農村生活環境の改善

地区から幹線道路である国道までは従来10分かかっていたが、本事業の実施により5分に短縮される等、一般交通の走行時間の短縮も図られ、地域住民の生活環境の向上に寄与している。

【一般交通走行時間】

(単位：分)

区 分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成24年)
	現況	計画	
走行時間 (走行速度)	10 (20km/h)	5 (40km/h)	5 (40km/h)

(出典：事業計画書、県調べ)

(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

① 農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化

ほ場整備と相俟って農道が整備されたことで、地区内の農産物輸送や、ほ場間の移動が効率化されたことにより、経営面積5ha以上の経営体が31戸から47戸に増加するなど農地集積の促進に寄与している。

区 分	平成7年	平成22年	増減率
1ha未満	2,303戸	1,731戸	△24%
1ha以上2ha未満	869戸	579戸	△33%
2ha以上5ha未満	154戸	127戸	△17%
5ha以上	31戸	47戸	51%

(出典：農業センサス、県勢要覧、農業委員会調べ)

(3) 事業実施による波及的効果

整備された農道は、飯山市で毎年開催されている「いいやま菜の花まつり」へのアクセス道路や「飯山市駅伝大会」のコースの一部にもなっており、地域の活性化にも寄与している。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

妥当投資額 (B) 2,754百万円

総事業費 (C) 1,757百万円

投資効率 (B/C) 1.56

(注) 投資効率方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

本事業により整備された農道は、農作物の集出荷や通作に加えて、地域住民の生活道路や災害時には近接する主要地方道の迂回路としても利用可能であり、生活環境の改善に大きく寄与している。

6 今後の課題等

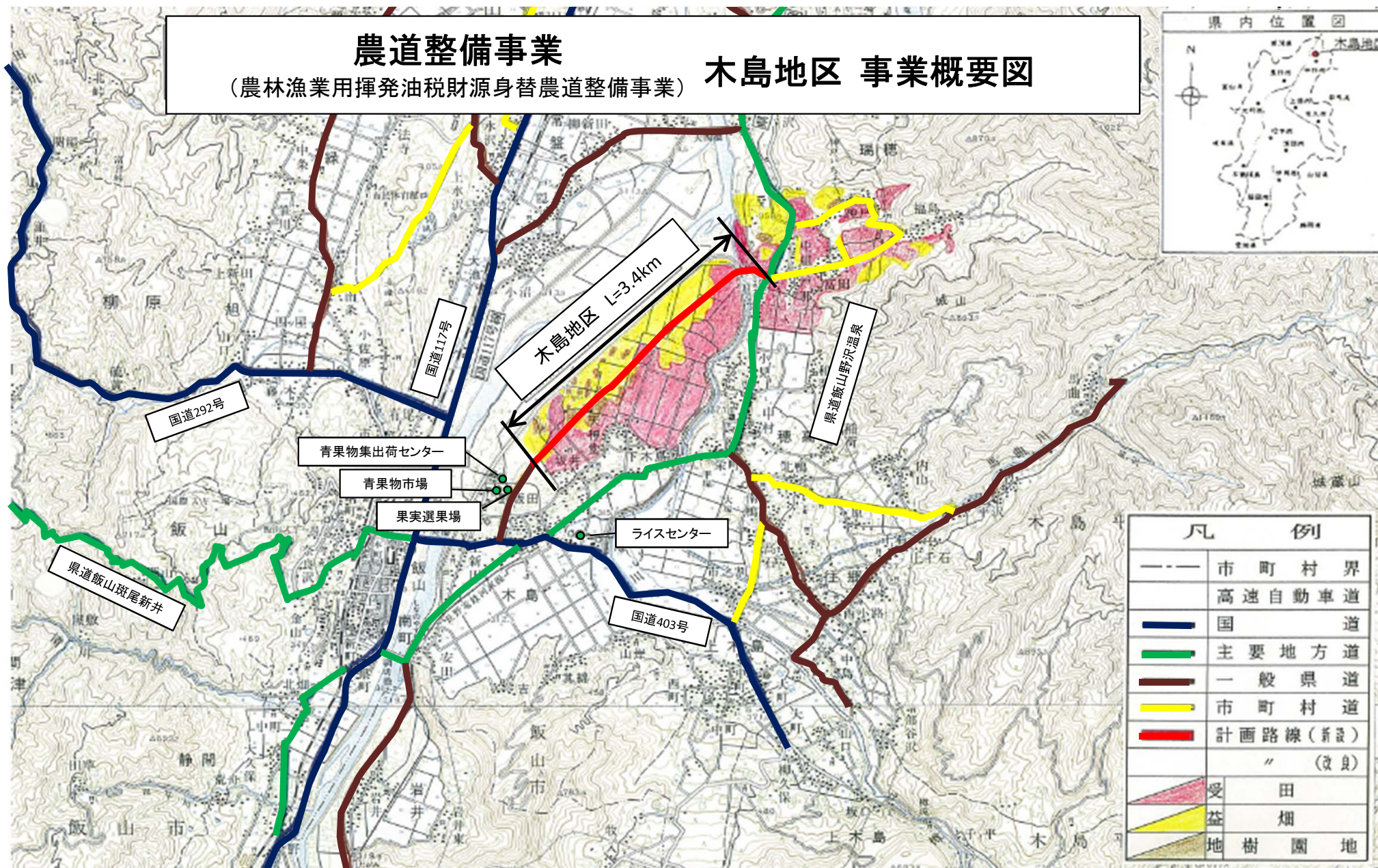
本農道は、飯山市及び木島平村が適切な舗装補修等を行っているが、事業効果の持続的な発現のため、今後も適切な維持管理を行っていくことが肝要である。

事後評価結果	・ 農道の整備により、通作・出荷時間の短縮が図られたことで、効率的な営農が可能となり、農業生産性の向上に繋がっている。 ・ また、農道は、地域住民の生活道路としても活用されており、生活環境の改善に寄与している。
第三者の意見	(地区に関する意見) 本事業の実施により、集出荷及び通作に係る走行時間の短縮が図られ、営農効率が向上し、それに伴い農地の利用集積も促進されている。また、地域住民の交通利便性の向上等にも寄与しており、生活環境の改善が図られている。今後も整備された施設について、所要の機能が維持されるよう、引き続き適切な維持管理を行われない。 (事業に関する意見) 事業の実施に伴い、営農効率の向上、農業生産物の流通の合理化等、農村環境の改善効果が認められることから、今後は、整備された農道のライフサイクルコストの低減と施設の長寿命化を図る必要がある。

農道整備事業

(農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業)

木島地区 事業概要図



凡 例	
---	市 町 村 界
---	高 速 自 動 車 道
—	国 道
—	主 要 地 方 道
—	一 般 県 道
—	市 町 村 道
—	計 画 路 線 (新 設)
—	" (改 良)
△	受 田
△	益 畑
△	地 樹 園 地

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局	名	東海農政局
---	---	-------

都道府県名	愛知県	関係市町村名	とこなめし ち た し み な み ち た ち ょ う 常滑市、知多市、南知多町、 み は ま ち ょ う 美浜町
事業名	農道整備事業 (広域営農団地農道整備事業)	地区名	ち た は ん と う 知多半島
事業主体名	愛知県	事業完了年度	平成19年度

〔事業内容〕

事業目的：本地区は名古屋圏に隣接した都市近郊の農村地域で、昭和36年の愛知用水通水以来、ほ場整備を始め農地開発などの基盤整備が進められ、水稻、野菜・果樹・畜産等の農産物を主に名古屋圏へ供給している。

しかし、営農団地は地形の特質から分散しており、効率的な農産物流通が図られていなかったため、農産物等を輸送するための基幹的な道路の整備が求められていた。

このため、本事業により営農団地と集出荷施設の連絡道路、集出荷施設と市場への農産物流通経路として広域農道を整備し、高生産性農業（市場流通の拡大、取引の規格化及び大量化の情勢に対応）の展開に資する。

受益面積：5,427ha

受益戸数：5,777戸

主要工事：農道 22.0km

総事業費：9,878百万円

工期：昭和63年度～平成19年度（計画変更：平成7年度）

関連事業：国道247号線新設事業、大府常滑線を含む3路線（4区間）、八幡岡田線を含む2路線

〔項目〕

1 社会経済情勢の変化

（1）社会情勢の変化

常滑市、知多市、南知多町及び美浜町（以下「本地域」という）の総人口について、昭和60年と平成22年を比較すると6.9%増加し、愛知県全体の増加率14.8%より低くなっている。

【人口、世帯数】

区分	昭和60年	平成22年	増減率
総人口	173,343人	185,353人	6.9%
総世帯数	48,554戸	68,929戸	42.0%

（出典：国勢調査）

産業別就業人口については、第1次産業の割合が昭和60年の11.8%から平成22年の8.5%に減少しているが、愛知県全体の2.3%に比べて高い割合となっている。

【産業別就業人口】

区分	昭和60年		平成22年	
		割合		割合
第1次産業	10,010人	11.8%	7,835人	8.5%
第2次産業	37,674人	44.2%	29,974人	32.6%
第3次産業	37,463人	44.0%	54,234人	58.9%

（出典：国勢調査）

(2) 地域農業の動向

昭和60年と平成22年を比較すると、耕地面積については7.1%減少、販売農家数は44.8%減少、農業就業人口は58.2%減少している。また、農業就業人口に占める65歳以上の割合は30.6ポイント上昇している。

なお、農家1戸当たりの経営耕地面積及び認定農業者数は増加している。

区分	昭和60年	平成22年	増減率
耕地面積	4,900ha	4,552ha	△7.1%
販売農家数	3,550戸	1,958戸	△44.8%
農業就業人口	7,620人	3,185人	△58.2%
うち65歳以上	2,716人	2,109人	△22.3%
1戸当たり経営耕地面積	0.68ha/戸	1.18ha/戸	73.5%
認定農業者数	(12人)	174人	(1,350%)

(出典：農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は愛知県調べ)

注1) 昭和60年の販売農家数、農業就業人口、1戸当たり経営耕地面積は、センサス調査項目の変更により販売農家の数値がないため、総農家における数値を記載している。

注2) 昭和60年の認定農業者数は、平成8年の数値である。

2 事業により整備された施設の管理状況

本農道は、関係市町である常滑市、知多市、南知多町、美浜町の農道及び認定道路として草刈り等適切に管理されている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

水稻については、生産調整の拡大のため、計画を下回る作付けとなっている。

また、野菜類については、農産物の多品目化、価格の低迷等により計画を下回る作付けとなっている。

【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成23年)
	現況	計画	
水稻	2,063	1,825	1,570
ふき	130	160	52
たまねぎ	151	337	130
みかん	844	690	493

(出典：事業計画書、愛知県聞き取り)

【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成23年)
	現況	計画	
水稻	10,070	9,755	8,072
ふき	4,574	14,220	3,394
たまねぎ	7,568	16,750	5,593
みかん	18,650	24,220	9,250

(出典：事業計画書、愛知県聞き取り)

【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成23年)
	現況	計画	
水稻	3,092	2,996	2,479
ふき	1,051	3,269	780
たまねぎ	313	692	231
みかん	1,662	2,159	825

(出典：事業計画書、愛知県聞き取り)

(2) 営農走行経費の節減

本事業の実施により、農産物を運搬する車両の大型化や走行速度の向上が図られ、通作、出荷時間の節減（南知多営農センターから市場（名古屋方面）まで、計画では72分→64分。評価時点では78分→68分）が図られている。

【通作時間】

(単位：hr)

区分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成23年)
	現況	計画	
テラー	45,273	—	—
軽トラック	3,773	16,390	12,293

(出典：事業計画書、愛知県聞き取り)

【出荷時間】

(単位：hr)

区分	事業計画（平成7年）		評価時点 (平成23年)
	現況	計画	
テラー	285,429	—	—
軽トラック	141,997	186,543	95,602
1 t トラック	40,224	69,602	19,880
2 t トラック	48,389	47,996	9,526
4 t トラック	33,222	11,372	5,304
10 t トラック	—	4,741	3,355

(出典：事業計画書、愛知県聞き取り)

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上

本農道の整備により、走行距離や時間の短縮、輸送車両の大型化が図られ、通作や集出荷及び農産物の輸送に係る労働時間の大幅な改善（南知多営農センターから市場（名古屋方面）まで、計画では72分→64分。評価時点では78分→68分）が図られている。

② 農業構造の改善

地域全体の農家戸数が昭和60年に比べ5割近く減少している中、経営耕地面積3.0ha以上の農家戸数は逆に約1.9倍に増加している。

【経営規模別農家数】

(単位：戸)

区分	事業計画時現況 (昭和60年)	評価時点 (平成22年)
3.0ha未満	3,487	1,839
3.0ha以上	63	119
計	3,550	1,958

(出典：農林業センサス)

(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

① 農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化

広域営農団地の基幹となる農道が整備されたことで、農道と一般道路の道路ネットワークが形成され、集落、ほ場、集出荷施設、市場等が有機的に連携された。

(3) 事業による波及効果

農道周辺の観光施設（いちご狩り、花広場）等への経路、周辺工場等の通勤経路としても有効的に利用されている。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

総便益 (B) 48,052百万円

総費用 (C) 30,835百万円

総費用総便益比 (B/C) 1.55

(注) 総費用総便益比方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

本事業で整備された農道は、農産物の集出荷や通作のみならず、地域住民の生活道路としても活用されており、生活環境の改善に寄与している。

また、歩道を設置した区間については、中学校の通学路として利用されており、地域の安全性にも配慮している。

(2) 自然環境

工事の施工に当たっては、法面保護における緑化工法の採用等を行い、自然環境や景観への影響を最小限になるように実施したことから、周辺の自然環境に変化は生じていない。

6 今後の課題等

本農道は、主要な出荷先である名古屋市場へ向かうにつれて、市街地に隣接する立地条件となり、交通量も比較的多くなることから、市町が管理する道路の補修・整備を適時実施するよう県及び関係市町と連絡・調整し、道路機能を適切に維持していく必要がある。

事後評価結果	・ 農道の整備により走行距離や時間の短縮等が図られ、農産物の集出荷や営農者の通作が改善されている。 ・ 主要な出荷先である名古屋市場へ向かうにつれて、市街地に隣接する立地条件となり、交通量も比較的多くなることから、市町が管理する道路の補修・整備を適時実施するよう県及び関係市町と連絡・調整し、道路機能を適切に維持していく必要がある。
第三者の意見	・ 農産物の集出荷、通作時間が大幅に節減されているとともに、消費地からのアクセスが確保され農業関連観光施設への入り込み客数が増加するなど、事業の効果が発揮されている。 ・ 今後は、事業効果を持続的に発揮させるために、関係市町がしっかりと連携を図り、道路の適正な維持管理体制を構築されたい。

農道整備事業 知多半島地区 概要図



総事業費 9,878百万円
 工事期間 昭和63年～平成19年
 受益面積 5,427 ha
 主要工事 農道 22.0 km

凡	例
市界	市界
町界	町界
界	界
計画路線(広域営農団地農道)	計画路線(広域営農団地農道)
計画路線(他事業農道)	計画路線(他事業農道)
計画路線(土木部所管施行分)	計画路線(土木部所管施行分)
橋	橋
梁	梁
現道	現道
利用	利用
年度まで施行	年度まで施行
年度施行	年度施行
年度施行	年度施行
年度以降施行	年度以降施行
有料道路	有料道路
国道	国道
主要地方道(県道)	主要地方道(県道)
一般県道	一般県道
受益地	受益地
田	田
畑	畑
樹園地	樹園地

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名	近畿農政局
-----	-------

都道府県名	和歌山県	関係市町村名	ありだし 有田市
事業名	農道整備事業 (農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業)	地区名	ありだせいぶ 有田西部
事業主体名	和歌山県	事業完了年度	平成19年度

〔事業内容〕

事業目的： 本地区は、和歌山県有田市の南部に位置する有田川左岸の傾斜端に拓かれた樹園地で、全国有数のみかんの産地であり「有田みかん」が地域ブランドとして認定されている。

しかし、本地区は農道が少なく、また、既設農道は約2mという狭小な幅員で屈曲が激しく、運搬は軽トラックやエンジンリヤカーに頼っていたため、生産コストが高く、農業経営を圧迫していた。

このため、本事業で農道を整備し、樹園地から共同選果場を連絡することで、営農経費の節減、農業生産性の向上と維持管理費用の節減を図り、優良産地として農業経営の安定と地域農業の振興に資するものである。

受益面積：225ha

受益者数：160人

主要工事：農道5.7km

総事業費：2,487百万円

工 期：昭和61年度～平成19年度（計画変更：平成13年度）

関連事業：なし

〔項 目〕

1 社会経済情勢の変化

(1) 社会情勢の変化

本地域（有田市）の総人口について、事業実施前の昭和60年と事業実施後の平成22年を比較すると 13.6%減少し、和歌山県全体の減少率7.8%より高くなっている。

【人口、世帯数】

区分	昭和60年	平成22年	増減率
総人口	35,401人	30,592人	△13.6%
総世帯数	9,515戸	10,735戸	12.8%

(出典：国勢調査)

産業別就業人口については、第1次産業の割合が昭和60年の20.1%から平成22年度の15.8%に低下しているが、和歌山県全体の9.3%に比べて高い割合となっており、本地域においては第1次産業の位置づけが高くなっている。

【産業別就業人口】

区分	昭和60年		平成22年	
	人数	割合	人数	割合
第1次産業	3,192人	20.1%	2,224人	15.8%
第2次産業	5,653人	35.6%	4,075人	29.0%
第3次産業	7,018人	44.2%	7,555人	53.8%

(出典：国勢調査)

注：分類不明の就業者がいるため、割合の合計は100%にならない。

(2) 地域農業の動向

昭和60年と平成22年を比較すると、耕地面積については17.9%減少、総農家戸数は41.1%減少、農業就業人口は46.5%減少しており、65歳以上の農業就業人口は14.2%増加している。

なお、農家1戸当たりの経営面積は10.9%増加している。

区分	昭和60年	平成22年	増減率
耕地面積	1,680 ha	1,380 ha	△17.9 %
農家戸数(総農家)	1,971 戸	1,161 戸	△41.1 %
販売農家戸数	(H2) 1,263 戸	945 戸	△25.2 %
農業就業人口	3,789 人	2,027 人	△46.5 %
うち65歳以上	851 人	972 人	14.2 %
戸当たり経営面積	(H2) 1.01 ha/戸	1.12 ha/戸	10.9 %
認定農業者数	(H7) 3 人	221 人	7,266.7 %

(出典：農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は有田市農業委員会データ)

注：販売農家戸数は、農林業センサスでは1990版(H2)から区分された

戸当たり経営面積は経営耕地面積を販売農家戸数で除した数値

認定農業者は、平成5年8月に施行された農業経営基盤強化促進法に基づき創設された

2 事業により整備された施設の管理状況

本農道は、管理者である有田市が、毎年草刈り、清掃を民間業者へ業務委託して実施する等、適切に管理されている。さらに、地域の老人クラブにおいても、農道沿線で年3回程度のゴミ拾いが行われている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

作付け作物をすべて温州みかんに転換する計画から、一部の高齢者等の離農によって作付面積は減少したものの、計画どおり全て温州みかんに転換されている。

また、事業着手前は中生、晩生がほとんどであったが、一部、早生や極早生を導入したことから収穫期間が分散されている。

【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成13年）		評価時点 (平成22年)
	現況	計画	
水稻	4	0	0
トマト	2	0	0
大根（裏作）	(3)	0	0
温州みかん	149	225	210
八朔	70	0	0

(出典：事業計画書、有田市聞取り)

【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成13年）		評価時点 (平成22年)
	現況	計画	
水稻	20	0	0
トマト	113	0	0
大根	95	0	0
温州みかん	3,645	5,504	5,456
八朔	1,871	0	0

(出典：事業計画書、有田市聞取り)

【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成13年）		評価時点
	現況	計画	（平成22年）
水稻	4	0	0
トマト	55	0	0
大根	15	0	0
温州みかん	893	1,348	1,256
八朔	200	0	0

(出典：事業計画書、有田市聞取り)

(2) 営農経費の節減

本事業の実施により、農産物を運搬する車両の大型化や走行速度の向上が図られ、通作、出荷時間等の短縮が図られている。

区分	事業計画（平成13年）		評価時点
	現況	計画	（平成24年）
年間通作時間	74 hr/戸	14 hr/戸	14 hr/戸
平均走行速度	13 km/hr	40 km/hr	40 km/hr
平均輸送時間	15 分	3 分	3 分

(出典：事業計画書、有田市聞取り)

注：平均走行速度、平均輸送時間は、各受益地から共選場までの農道通行に係る走行速度、輸送時間を各受益面積に対する加重平均により算出

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 生産性の向上

本事業の実施に伴い、樹園地から共同選果場までの走行時間が短縮されるなど、走行に係る営農経費が節減されるとともに、既存の未舗装耕作道から舗装された幹線農道に改善されたことにより、荷傷みが軽減されている。

② 農業構造の改善

兼業農家については、高齢化に伴い離農するケースが見られたが、専業農家については、農道が整備されたことで通作時間の短縮、効率的な農産物輸送が可能となり、農作業が省力化されたことで営農意欲が増大した若手の後継者も確保されており、一部の農家では経営規模の拡大も行われている。

(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

農道が整備されたことで、通作時間の短縮、効率的な農産物輸送が可能となり、農作業の省力化がきっかけで後継者の営農意欲が増大したこと等により、担い手が確保されている。

また、幅員2m程度の既存農道から6.5mの本農道に整備される等、安全性が向上することにより、高齢者も安心して運転でき、営農を継続できるようになるなど、産地形成の強化が図られている。

(3) 事業による波及効果

本農道は、山頂付近から南側に湯浅湾、西向きに紀伊水道が広がり、風光明媚な農道であることから、「有田みかん海道」と命名され、年1回のマラソン大会やウォーキングイベントの開催掲載されるなど、観光資源等としても有効に利用されている。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

妥当投資額 (B) 3,834 百万円

総事業費 (C) 2,952 百万円

投資効率 (B/C) 1.29

(注) 投資効率方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

本地区は海に突き出た半島の高台に位置し、本事業で整備された山間部の農道は、農作物

の集出荷や通作のみならず、台風時等、有田川の氾濫の恐れがある場合（避難勧告発令時）には、地域の低平地集落から多くの人や車両が避難するなど、避難場所としても活用されており、生活安全性の確保に大きく寄与している。

なお、本地区の一部は、市が指定する洪水時や津波時の避難ルートとなっている。

（２）自然環境

工事の計画、施工に当たっては、既存農道の改良や、尾根に沿ったルートを設定するなど橋梁等の設置を極力避け、周辺自然環境と調和が図られている。

6 今後の課題等

本農道は、現在、維持管理にかかる費用は少ないが、今後発生する補修、更新整備を的確に行えるよう、市内全体の道路等を含めた維持管理計画を検討する必要がある。

事後評価結果	本農道の整備で通作、農産物の輸送が効率化し、営農経費及び労力の節減等が図られ、農業経営が改善されている。 あわせて、地域住民等の避難路、都市住民の観光資源としても利用され、生活環境の向上に寄与している。 今後発生すると想定される補修、更新整備を円滑に行うため、維持管理計画を検討する必要がある。
第三者の意見	本事業により樹園地から共同選果場までの農道が整備されたことで、通作や農産物輸送の効率化による営農経費の節減や、舗装による荷傷みの軽減が図られ、農業経営が改善されている。 本事業により整備された農道は、地域住民の避難路として活用されているほか、美しい景観を生かしてマラソン大会が実施されるなど、地域の活性化にも寄与している。 本農道は市により適切に管理されているが、今後発生する補修、更新整備を円滑に行うため、市全体の道路を維持管理する中で、これらを計画的に実施していく必要がある。

農 林 漁 業 用 揮 発 油 税 財 源 身 替 農 道 整 備 事 業 有 田 西 部 地 区 事 業 概 要 図

